

人間活動と環境保全との調和に関する研究

— 持続型社会の構築に向けた地域循環共生圏の形成、
自然再生による持続性ある地域づくりと生物多様性の回復 —

1. 助成の趣旨

ニッセイ財団では、21世紀の社会が活力あふれる真に豊かな社会となるためには、調和のとれた社会・自然環境に支えられた、活力と創造性ある人間性豊かな生活環境を一層確立していくことが重要と考え、豊かな人間生活にとって欠かせない基盤の一つである環境の改善・充実に資する研究に対し、助成を行います。

2. 助成研究の区分と募集課題

○学際的総合研究

①課題：学際的総合研究では、設定されたテーマに対し、下記の点を兼ね備えた研究を期待しております。

- i) 学際性：学問領域の枠を超えた学際的・総合的な研究
- ii) 協働性：多様なステークホルダーとの協働
(地元自治体、NPO・NGO・地域住民等の実践活動者など)
- iii) 実践性：社会実装に資する提言型の研究

(2025年度設定テーマ)

テーマ1：持続型社会の構築に向けた地域循環共生圏の形成
テーマ2：自然再生による持続性ある地域づくりと生物多様性の回復

②研究の期間：2025年10月から2027年9月までの2年間

③設定テーマの趣旨：

- ・ 冒頭の「助成の趣旨」に鑑み、2025年度につきましては、上記の2つをテーマといたします。両テーマとも「人間活動と環境保全」に深く繋がっており、相互に関連する研究も募集対象といたします。これらのテーマについて、現在直面する社会現象も踏まえながら、従来の課題に対する解決策のみならず、新たな課題を掘り起こすことも視野に入れた取り組みを期待します。
- ・ i) 「持続型社会の構築に向けた地域循環共生圏の形成」～ 持続型社会を構築するには、各々の地域における持続可能な地域づくり（SDGsのローカル化）が求められます。その実現のためには、多様な主体の参加と協働により、地域資源を活用しながら都市と農村が連携し、地域の特性を活かしつつ地域同士が支え合うネットワークを形成していくという、自立・分散型でかつ交流を促進する社会の構築を目指していくことが重要です。同時に、森里川海からもたらされる生物多様性の保全や生態系サービスがもたらす恵みの享受等、自然システムと人間・社会システムの統合的向上を通じ、人と自然が共生する地域の豊かさを創造していくことが求められます。こうした人間活動と環境保全をめぐる横断的な課題を統合化し、将来世代に向け一体的な解決に資する研究を募集します。

- ・ ii) 「自然再生による持続性ある地域づくりと生物多様性の回復」～ 近年、気候変動や農地開発、侵略的外来種の蔓延による生息環境の悪化、乱獲・過剰採取などにより、生物多様性は急速に失われ、生態系の持つ機能の劣化が指摘されています。自然の損失を食い止め、回復軌道に乗せるため、OECMの拡充による30by30目標の達成等に加え、生態系の構造や機能の回復が課題となっています。そのためには生物多様性の保全と持続的利用の両立を可能とするネイチャーポジティブ経済の実現を含めた社会を挙げての取組が必要であり、それに向けては専門家の知見に加え、NPO・地域住民・企業・行政等、多様なステークホルダーの参画を通じた取り組みが求められます。こうした自然再生と地域づくりを通じた生態系機能回復と生物多様性の保全を目指すとともに、SDGsの達成、気候変動への適応など多様な課題の解決に資する研究を募集します。

「研究課題に関するキーワード（例）」

(1) 持続型社会の構築に向けた地域循環共生圏の形成

サステナビリティ、自然資本、自然資源経済、地域資源の活用、ランドスケープ、都市(緑地)計画、都市と農村・中山間地域との連携・共生、コンパクトシティ、森里川海のつながり、地域コミュニティの維持、エコリズム、コモンズ、在来種の継承、レジリエンス、環境教育、30 by 30、ネイチャーポジティブ、自然再生、生物多様性の保全、生物多様性地域戦略、生態系ネットワーク、生態系サービスの価値評価、野生動物問題、外来生物対策 等

(2) 自然再生による持続性ある地域づくりと生物多様性の回復

ネイチャーポジティブ経済、生態系ネットワーク、OECM、自然再生、二次的自然環境、30by30、希少種保全、侵略的外来種、生息地、鳥獣保護管理、自然共生サイト、管理放棄地、Eco-DRR、レッドリスト、ジビエ、食料システム、森林経営、有機農業、鳥獣被害対策、エコリズム、市民参加モニタリング、ステークホルダー

○若手研究・奨励研究

① 課題

- ・ ニッセイ財団研究助成の趣旨 (P.1の1.) を踏まえた研究とし、特に課題を設定しませんが、「人間性豊かな生活環境の確立」に役立つ、着想豊かな新しい分野への挑戦的研究を期待します。

② 応募資格の制限

- ・ 年齢は45歳未満(1980年4月1日以降生まれ)とします。但し、学生(院生を含む)には応募資格はありません。

③ 研究の期間

- ・ 2025年10月から2026年9月までの1年間

④ 研究募集の趣旨

- ・ 本財団の研究助成の趣旨に基づき、幅広い視野に立つ研究を募集します。その研究を踏まえて更に次のステップに発展し得るような若手研究者の基礎的な研究や萌芽的研究から、新しい分野への挑戦的研究まで、幅広く募集します。

3. 成果の公表・普及について

・本助成では、研究の遂行と並び助成による研究成果の公表・普及を図ることが重要であり、研究成果・提言が社会に受け入れられ実践されて、はじめて「環境問題への具体的貢献」であると考えています。

・このため当財団では、以下の成果発表助成に、特に力を入れています。

◎助成研究成果を報告・討議するワークショップの開催支援(学際的総合研究助成)

◎市販を想定した助成研究成果出版物の刊行支援(学際的総合研究助成)

○「財団ホームページ」への研究報告の掲載

研究助成を受けて研究を遂行した後、その成果の発表も計画されている方は、上記の活用を積極的に検討ください。

公表・普及の詳細については財団ホームページをご覧ください。

URL <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp>

4. 本年度募集の概要

区 分	学際的総合研究	若手研究・奨励研究
課 題	<設定テーマ> i) 持続型社会の構築に向けた地域循環共生圏の形成 ii) 自然再生による持続性ある地域づくりと生物多様性の回復 ※ <u>学際性・協働性・社会実装性を兼ね備える</u> こと	ニッセイ財団の「助成の趣旨」を踏まえた環境問題研究で、 <u>若手研究者の基礎的研究・萌芽的研究や新しい分野への挑戦的研究</u> (特に課題は設定していません)
助成金 総額	4千万円程度 (予定)	
1件当たり助成額 (目途)	(2年間分) 1000万円～1500万円	50万円～150万円
助成期間	2025年10月から2年間	2025年10月から1年間
申請方法 ^(※)	当財団ホームページ(マイページ)からのWeb申請	
応募締切	2025年3月25日(火) Web入力〆切	
助成の決定	当財団選考委員会にて選考の上、 <u>9月の理事会で決定</u>	

【助成対象とならない研究】 <学際的総合研究、若手研究・奨励研究 共通>

- 営利を目的とした研究、営利につながる可能性の大きい研究
- 他の機関から委託を受けている研究 (予定を含む)
- 主な研究フィールドが海外となる研究、旅費・委託費が経費の大半を占める研究 等
- 特定の技術開発・素材開発・教材開発中心の研究

※: また、申請にあたり、科研費等の助成採択・応募状況について、申請書への正確な記載がない場合は、助成対象外とさせていただきます。

当「募集要項」のPDFファイルは、日本生命財団ホームページからダウンロード可能です。

5. 応募資格

- 代表研究者の国籍・所属や資格は原則として問いません。
ただし、下記に該当する方は代表研究者(※)にはなれません。

- 海外居住者
- 営利の追求を目的とする機関(企業)に所属する者

※：代表研究者とは、当該研究組織を代表し、中心となって研究のとりまとめを行ない、研究助成金の管理及び報告事務等を含めて、研究計画の推進に責任を持ちうる人、とします。

6. 助成金の使途

- 研究計画の遂行および取りまとめに必要な資金で、後掲の「研究助成金費目一覧」(P.5)のとおりとします。

7. 応募手続

- 当助成への応募はWeb申請となっていますので、下記手順に沿って応募ください。

①代表研究者が当財団HP内の「募集の概要」から **マイページに新規登録・ログインする** を押して進み、基本情報の新規登録を行ってください。

②登録されたメールアドレス(=ID)に「仮登録のお知らせ」のメールが送信されます。
メールに記載されたURLにアクセスして確認ボタンを押すと、登録が完了します。

③登録が完了すると、「登録完了のお知らせ」メールが送信されます。
※：「採」「否」の結果等も、この登録されたメールアドレスにお送りします

④IDとパスワードを使用してマイページにログインし、「助成プログラム」を選択のうえ、下記要領にて申請を進めてください。
・Web入力項目：『申請受付フォーム』の空欄に入力ください。
・Web入力項目以外：『申請受付フォーム』からダウンロードした申請書様式(Word)に入力し、PDFファイルとして一旦保存したうえで、「申請受付フォーム」の所定欄よりアップロードください。

⑤最後に、『申請する』ボタンを押してWeb申請完了となります。

⑥Web申請が完了しましたら「応募完了のお知らせ」のメールが届きます。

- 申請内容は全て日本語で入力ください。
- 上記Web申請以外の応募手段はありません。
また、ダウンロードした申請書様式の改変(紙面や頁の追加等)による申請については、選考の対象としません。

※：申請書記載の個人情報については助成選考時に使用します。
また、助成決定分については、助成結果の公表時に使用します。

8. 選考方法

- 当財団での数度にわたる選考委員会において厳正かつ公平に選考を行い、2025年9月の理事会で最終決定の予定です。
※：「採」「否」の結果は、申請者全員にメールにて通知いたします。
また、「採」「否」の理由に関するお問合せには応じかねますので予めご了承ください。
- なお、選考の結果、より充実した研究成果を挙げるため、研究対象・方法の変更、研究メンバーの補強などを助成の条件とさせていただきます。

9. お問い合わせ先

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル4F ニッセイ財団 環境問題研究助成 事務局 TEL (06)6204-4012 FAX (06)6204-0120 ホームページ http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp
--

研究助成金費目一覧

費 目	説 明
(1) 研究補助者経費 研究協力者謝金 研究作業者謝金	共同研究者以外の外部協力者からの助言、協力に対する謝金 研究活動に必要な資料、実験、測定、実態調査等の研究補助作業者に対する謝金（実験要員、観測員、採取・採集者、車輛運転手、タピスト等の臨時雇の作業従事者に対する謝金）
(2) 旅行経費 国内旅費 海外旅費	調査や会議出席等、研究のための出張にともなう交通費、宿泊費、雑費 研究のための出張にともなう交通費、宿泊費、雑費（海外渡航にともなう手数料、保険料、税金等を含む）
(3) 調査・機器経費 調査委託費 コンピュータ費 機器・備品費	アンケート調査、データ集計、実験等を外部に委託する場合の経費 コンピュータ・プログラム開発、データ処理、コンピュータ使用料、プログラム借用料等の経費 研究に使用するための1点10万円以上の機器、備品費 （機器の取付費も含めることができる）
(4) 資料・印刷経費 図書購入費 資料費 印刷・複写費	研究のための書籍、論文等の購入費 研究のための写真、記憶媒体等の経費 研究のための調査票・集計表等の印刷費、書類の複写費 研究報告書の印刷費用
(5) 会議経費 会場借用費 会議雑費	会議会場として借用する場所の不動産借用料 会議の際の茶菓子、弁当代、通信費等
(6) 研究施設経費	研究所、実験室等の不動産借用料、光熱水費、雑費等、 研究所、研究室・実験室等の維持費（研究組織の一般管理費は認められません）
(7) 通信・運搬経費	通信費、機器運搬費
(8) 消耗品経費	研究のための一般文具用品、試薬・試料・実験のための部品等の 消耗品費、1点10万円未満の機器・備品費
(9) 雑経費	動物・植物の飼育費用、翻訳料、速記料、調査対象者贈答品費、 調査対象機関謝金、設備・機械・器具等の保守管理費、研究集会 参加費、その他の経費

(注) 次の経費は認められません

- 代表研究者・共同研究者の人件費、日当、謝金
- 研究成果の発表を目的として行う出版物の刊行費用
- 大学等の研究室に通常配備されている機器・備品類（パソコンを含む）
- 研究計画に記載のない旅費
- 研究組織の運営管理に必要な一般管理費
- 所属機関への間接経費（オーバーヘッド）